

# 講演会のお知らせ

日本山岳文化学会遭難分科会は、下記要領にて、おもに登山愛好家に向けた講演会を開催いたします。山岳遭難防止対策の一助として活用していただければ幸いに存じます。

なお、会場の定員は約 50 人です。資料準備の関係がありますので、出席を希望される方は事前に分科会代表・恵（いさお）または講演者・野村までご連絡ください。

主催：日本山岳文化学会遭難分科会

日時：2月27日（火）19:00～21:00

場所：日本勤労者山岳連盟本部事務所 <http://www.jwaf.jp/profile/location/index.html>

東京都新宿区新小川町 5-24（JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩 10 分、上記 HP の地図参照）

ご連絡・お申込先：恵 [hidu-isao@mub.biglobe.ne.jp](mailto:hidu-isao@mub.biglobe.ne.jp)

野村 [nom@yokohama.email.ne.jp](mailto:nom@yokohama.email.ne.jp) 080-5037-2536

## 論題：那須雪崩遭難事故のまとめと教訓

——事故後 1 年を過ぎての全国的な対応状況など

講演者：野村 仁（山岳ライター、日本山岳文化学会遭難分科会）

※参加費 500 円（資料代等）

### ■論題について

2016 年 3 月に雪上技術研修中の高校生 7 人、引率教員 1 人が雪崩に巻き込まれて死亡した「那須雪崩遭難事故」は、同年 10 月に検証委員会による最終報告書が公表され、12 月には雪崩災害調査研究チームによる科学的研究成果（気象、雪崩、災害情報、登山教育など）が公表されました。講演では、この 2 つの公表内容から何が明らかになったのかを、可能な限りわかりやすくまとめて紹介したいと思います。そして、この遭難事故の検証結果を踏まえて、全国的にいくつかの動向がありました。一部の県では高校生の雪山（冬山+春山）登山を自粛するのとは逆に、基礎的な範囲で正しく指導しようという方向性を打ち出しました。そのような県では、高校生の雪山登山のリスクをどう回避しようとしているかについて、具体的に紹介したいと思います。

### ■講演者について

日本山岳文化学会遭難分科会会員、同学会理事。雑誌『山と溪谷』で主に遭難記事を担当してきたライター・編集者。以前は同誌で登山技術の記事も執筆しており、『登山技術全書 1・登山入門』（2007 年）、『ヤマケイ入門&ガイド・雪山登山』（2012 年）の著書があります。近著は『やっつけない山歩き』（2016 年、青春出版社）があります。